

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成30年7月19日(2018.7.19)

【公開番号】特開2017-15425(P2017-15425A)

【公開日】平成29年1月19日(2017.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2017-003

【出願番号】特願2015-129516(P2015-129516)

【国際特許分類】

G 01 L 3/10 (2006.01)

【F I】

G 01 L 3/10 3 1 7

【手続補正書】

【提出日】平成30年6月11日(2018.6.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 0】

又、上述の様に互いに組み合わせた、前記第一、第二両センサ38、39、前記第一、第二両基板40、41、及び、前記センサ支持ブロック42と、この第一基板40に接続した前記ハーネス50の一端部とを、図示しないエポキシ系接着剤やシリコン系接着剤等の樹脂系接着剤により封止(この樹脂部材に包埋)した状態で、前記センサキャップ43の内側に前記各固定用ピン49、49を利用して保持固定している。又、この状態で、前記ハーネス50の残部は、前記底部51の一部に形成したハーネス引出孔58を通じて軸方向に引き出している。又、本例の場合には、前記センサキャップ43を前記外輪15aの嵌合段差部57に圧入固定した状態で、内側に設置された前記第一センサ38を構成する検出部44aを、前記第一エンコーダ11の外周面(被検出面23)に対し径方向に関する微小隙間を介して対向させると共に、前記第二センサ39を構成する検出部44bを、前記第二エンコーダ12の外周面(被検出面24)に対し径方向に関する微小隙間を介して対向させている。この為、前記第一センサ38は、前記第一エンコーダ11の磁気特性変化に対応して出力信号を変化させ、前記第二センサ39は、前記第二エンコーダ12の磁気特性変化に対応して出力信号を変化させる。そして、前記第一、第二両センサ38、39の出力信号を、軸方向に引き出された1本のハーネス50を通じて、図示しない演算器に送信する。又、このハーネス50を通じて、前記第一、第二両センサ38、39に電力を供給する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 6】

以上の様な構成により、前記センサキャップ43aの内側に設置された前記第一センサ38を構成する検出部44aを、前記第一エンコーダ11の外周面(被検出面23)に対し径方向に関する微小隙間を介して対向させると共に、前記センサキャップ43bの内側に配置された前記第二センサ39を構成する検出部44bを、前記第二エンコーダ12aの外周面(被検出面24a)に対し径方向に関する微小隙間を介して対向させている。こ

の為、前記第一センサ38は、前記第一エンコーダ11の磁気特性変化に対応して出力信号を変化させ、前記第二センサ39は、前記第二エンコーダ12aの磁気特性変化に対応して出力信号を変化させる。そして、前記第一、第二両センサ38、39の出力信号を、軸方向にそれぞれ引き出された2本のハーネスを通じて、図示しない演算器に送信する。又、これら各ハーネスを通じて、前記第一、第二各センサ38、39に電力を供給する。